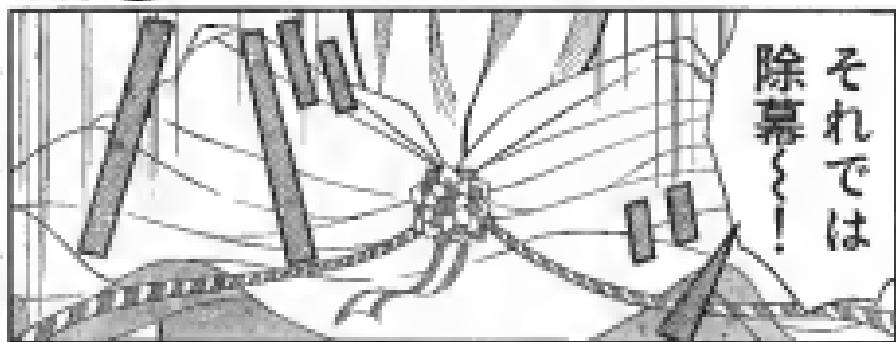


それでさ



第三十章

飞
翔



1

卷之三

中華書局影印

174

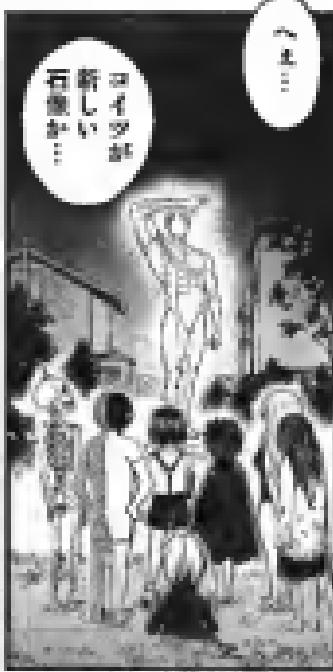
それは
無限に広がる
青い空…

「お様の
見つめ方
あるもの…

飯島しんごう

スミマセン

スミマセン



魔導士は
この学校の
宿舎か？

シルヴィの
マスクは面
してやる

!!

騒ぎだ…

今日の魔導式は
非常に
魔導的だな

「魔導式をゆ
れる奴」だら

ふわふわ…
俺の見りゆく次に
あるものは

「死」だ

死!?

俺を嘲った男は
木南のガンを
患つていてな

死ぬ迫る中を
我意で完成
させたんだ

俺は
彼の執念
そのもの…

だから
懶くて仕方
ないんだ

未来のある

若く輝く
子供が：

今の彼は
ただの馬鹿
石像に
すがなひが…



物の水を
駆け取った千葉は
身を駆け出

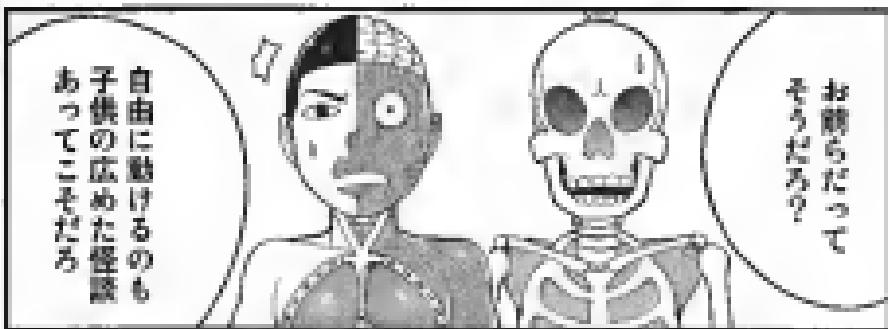
は運営と
なつて自由を
手に入れる。」

その時こそ
貴様らもろとも

この学校を恐怖の
底に沈めてやるぞ

長沙縣志

卷之三



子供の魂は
遙かに
恐ろしいぞ

お前よりも
ずっと…

子供が
恐ろしい
だと…

馬鹿を
言えー

見る
俺の前を
通る時の

子供たちの
様子
見えきつた
姿を…



早く
この俺に
ふさわしい

身の毛もよだつ
恐怖の衝撃を
生み出すのだ…



さあ

早く…



お～～～り ねるーぐ

ハタか見しんだわ～

エッロ大臣！
エッロ大臣！



大臣に
おもひ
りこわ
します

なあ～～～
おお～～～
おお～～～
おお～～～
おお～～～
おお～～～
おお～～～
おお～～～



やはり
心が折れたか…

あひ～～
あんた誰に因
じてねりかか

数日後…

